

令和5年10月26日

うるま市長
中 村 正 人 様

うるま市行政改革推進委員会
(補助金審査委員会)
会 長 佐 藤 学

令和5年度うるま市補助金等に関する審査結果について

この度、うるま市行政改革推進委員会規則第2条第3項及びうるま市補助金制度に関する指針に基づき、うるま市が行う補助金等について審査を行ったところでありますが、審査委員会としての提言を別紙「令和5年度うるま市の補助金等に関する審査結果について」のとおり取りまとめましたのでここに報告いたします。

令和 5 年度

うるま市の補助金等に関する審査結果について

令和 5 年 1 0 月

うるま市補助金審査委員会

目 次

第1 本市の補助金事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第2 審査の対象と方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 審査の対象
 審査方法

第3 審査結果概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 総括
 総合評価内訳

第4 個別審査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

◇ 付属資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

第 1 本市の補助金事業の概要

【補助金審査の対象項目について】

『うるま市補助金制度に関する指針』において、下記に掲げるものを「補助金等」として定義している。

【補助金】

特定の事業を育成又は助長するため、公益上必要があると認めた場合に補助するもの

【交付金】

市町村等に国・県の事務を委任している場合において、その所要経費を交付するもの

【負担金】

- (1) 市が特別の利益を受ける法令上の特定の事業に対し、一定額を負担するもの
- (2) 市が加入している各種団体への会費等

【利子補給金】

借入れに対する利子の支払に要する経費の一部又は全部を市町村等が補助するもの

令和 4 年度 一般会計当初予算（約 667 億 7,600 万円）

	件数	金額	一般会計に 占める割合
補助金	144	約 40 億 7,700 万	6.1%
交付金	4	約 1,500 万	0.02%
負担金	406	約 86 億 3,100 万	12.92%
合 計	554	約 127 億 2,300 万	19.05%

第 1 審査の対象と方法

1 審査の対象・・・・・・・・・・・・・・・・

『令和 5 年度うるま市行政経営方針』にて、「既存の補助金については、長期間に及ぶ団体補助を中心として、その目的と効果を踏まえて、縮小・廃止の検討を行う」（行政運営方針・補助金改革）と示されている。そのことから令和 4 年度の補助金事業より団体への補助金事業を中心に、9 件の補助金を対象に審査した。

【選定補助金・選定理由】

①市体育協会補助金

長期間にわたる団体補助であり、その成果等について検証するため。

②うるま市シルバー人材センター運営補助金

長期間にわたる団体補助であり、その成果等について検証するため。

③自治会運営振興補助金

身近な自治会ということもあり、その成果等について検証するため。

④うるま市商工会補助金

長期間にわたる団体補助であり、その成果等について検証するため。

⑤学力向上対策推進協議会補助金

小中学校の学力向上は、学校教育における課題であり、その中で当該協議会（事業）が果たす役割や取り組み内容について検証するため。

⑥文化協会補助金

文化活動の活性化に向けて、活動内容や団体運営の見直し、行政の関わり方について検証するため。

⑦うるま祭り事業補助金

今年度担当部において、まつりの在り方について見直しをすることから、委員の立場として確認するため。

⑧うるま市社会福祉協議会運営補助金

1 団体への補助金としては最も高額である。社会福祉協議会として求められる役割や行政の関わり方について審査するため。

⑨社会福祉協議会ボランティア事業補助金

社会福祉協議会運営補助金と合わせて審査するため。

2 審査方法

審査結果を令和 6 年度の予算編成に反映させるため、10 月までに審査を終えることとした。

審査は個別の補助金等について、事前に事務事業評価票、事業報告書、決算書等の資料の提出を求め、担当部署ごとにヒアリングを実施し以下の要領で行った。

- (1) 「うるま市補助金制度に関する指針」に定める交付基準（1. 事業の公共性（目的）、2. 事業の効果性（有効性・効率性・適時性）、3. 団体等の適格性など）を踏まえ評価を行い、見直し基準により方向性を判断する。

【見直し基準】

1 更に充実させる方向で見直し：A

- ① 事業そのものに発展性などが見られ、将来的においても必要であるもの。
- ② 事業効果が広く市民に波及するもの。
- ③ 行政と市民との役割分担の中で、補助すべき事業・活動であるもの。

2 現状のまま維持：B

- ① 法令等により補助の実施が義務付けられているもの。
- ② 国、県の補助金を財源の一部とする補助金で、市の負担が義務的であるもの。ただし、事業の実施方法等について市に裁量のある場合は、市民の負担のバランス等を考慮し、事業内容を見直すこと。
- ③ 補助金交付基準に概ね適合しており、補助の必要性が認められるもの。

3 効率化・コスト削減の方向で見直し：C

- ① 市が直接実施しなければならない事業等を団体等が行っているものに対し補助している場合などで、その支出科目について見直し（委託料、報償費等）を行う必要があるもの。
- ② 補助金交付基準により補助の必要性は認められるが、類似の補助（委託）があるため整理・統合により効果があがるもの。
- ③ 事業内容・経費・効果等が不明確で改善が必要であるもの。
- ④ 既存の団体運営経費に対する補助で、自主・自立の運営努力が必要なもの。ただし、設定した終期を経過しているものについては、縮小・廃止を視野に入れた見直しを検討する。
- ⑤ 特定の割合に応じて交付する分担金・負担金等について、負担額及び負担率、事業内容の見直しが必要であるもの。

4 縮小・廃止を前提とした見直し：D

- ① 施策の浸透、普及等により補助目的が達成されたもの。
- ② 社会情勢等の変化により、補助の目的・視点・内容が適切でなくなり、事業効果が薄れているもの
- ③ 補助の目的が十分達成されていないなど事業効果が乏しいものや事業目的が曖昧になっているもの。
- ④ 明らかに自立が認められる団体であるため、交付対象からはずすべきもの。
- ⑤ 補助金交付基準に適合していないと思われる事業又は団体等に対して補助するもの。

(2) 審査対象補助金1件あたり1時間を目途に審査を実施。担当課からの概要説明を5分、ヒアリングを35分、委員審議を20分として審査。

(3) 審査では、補助金審査票（事務事業評価票）及び関連資料を基に担当課ヒアリングを実施する。ヒアリングは、うるま市補助金制度に関する指針に示した補助金交付基準（1. 事業の公共性（目的）、2. 事業の効果性（有効性・効率性・適時性）、3. 団体等の適格性など）に基づき、市民の視点から補助の必要性、額の妥当性等を検証する。

(4) 上記審査に基づき、委員会としての総合評価（A：更に充実させる方向で見直し、B：現状のまま継続、C：効率化・コスト削減の方向で見直し、D：縮小・廃止を前提とした見直し）を決定し、その理由や意見、見直しの方向性等を取りまとめる。

第2 審査結果概要

1 総 括

うるま市における補助金等のあり方について、市民目線で審査を行うために当委員会が設置され、今回で14回目の審査となった。市民の立場から補助金等を確認していくことは行政改革として大変重要なことであり、補助金等が設定された趣旨や、時代の流れの中で本当に相応しいのか、常に検証していく必要がある。

今回、委員会で選定した9件の補助金について、担当課の事務事業評価票を基にヒアリングを行い、「うるま市補助金制度に関する指針（平成29年3月改訂）」に基づいて「本当に必要な補助金か」「額は妥当か」「運営上の課題はないか」等の視点から審査を行った。審査の結果として、まず始めに総括的な指摘事項として以下のとおり提言する。

（1）市（担当課）と補助金交付先（団体）との関わり、連携、役割分担について

今回審査した補助金において、市と補助金交付先との関わりや連携が不足していると感じた補助金や市との役割分担が不明確な補助金が多く見受けられた。

時代と共に市民のニーズは変化していくことから、求める役割についても定期的な見直しが必要である。市として主体的に補助金交付先へ関わり、目指すべきビジョンの共有や役割分担、成果の検証など連携を図っていくべきである。

（2）各分野の連携について

目標を達成する上で各分野の連携も重要である。今回審査した中で、スポーツ、高齢者の就業・健康・生きがい、自治会・コミュニティ、経済、学力向上・子育て、文化、祭り、福祉など、さまざまな分野の補助金があり、効果的・効率的な事業実施に向けて各分野ごとに連携を強めていくことが求められる。

（3）補助金のあり方について

補助金を交付する全ての事業に該当することだが、目まぐるしく環境が変化する中で、毎年同じように補助金が交付されているが、前例踏襲となっているものも少なくないと思われる。現状維持だけでなく、補助金交付の目的や事業計画を踏まえ、成果が出る補助金となるよう担当課はしっかり考えていただきたい。

また、団体補助の補助金に関しては、企画・提案型補助金の検討をしていただきたい。毎年同じ額ではなく、新しい企画や提案に対して補助金を交付する仕組みを作ることで環境の変化に応じた補助金の見直しが図れると期待するものである。

(4) まとめ

補助金交付事業の効果を上げるためには、当該事業に対する補助の必要性や、補助金の使途及び妥当性などについて常に検証する必要がある。今回の補助金審査を通して、補助金額が長年同じになっており見直しが図られていないと感じられる補助金や担当課における自主的な補助内容の改善に対する取り組みが弱いような事例が多数見受けられた。今後も持続可能な財政運営を目指すためには各補助金について、担当課が問題意識を持ち改善を図ることも必要である。

今回の補助金審査は、数ある補助金交付団体から8団体（9補助金）を選定して実施したものであるが、今回審査しなかった補助金に関しても、担当課が主体的となって補助金交付団体に対する適切な指導、助言に努めることで補助金交付の目的を達成できるよう望むものである。

また、今回行った審査にてC評価と判断された市体育協会補助金や自治会運営振興補助金、文化協会補助金、うるま祭り事業補助金の4件については、その後の取り組み状況を確認するため、当委員会としてフォローアップ調査を実施していきたい。

2 総合評価内訳・・・・・・・・・・・・・・・・

A：更に充実させる方向で見直し・・・・・・・・ 3件

- ・学力向上対策推進協議会補助金
- ・社会福祉協議会運営補助金
- ・社会福祉協議会ボランティア事業補助金

B：現状のまま継続・・・・・・・・ 2件

- ・うるま市シルバー人材センター運営補助金
- ・うるま市商工会補助金

C：効率化・コスト削減の方向で見直し・・・・ 4件

- ・市体育協会補助金
- ・自治会運営振興補助金
- ・文化協会補助金
- ・うるま祭り事業補助金

D：縮小・廃止を前提とした見直し・・・・ 0件

第3 個別審査結果

市体育協会補助金（スポーツ課）

補助事業の概要	本市の競技スポーツの向上及び社会体育の振興に寄与することを目的に設置されたうるま市体育協会が行う事業に対し、補助金を交付する。
令和4年度 補助金額	11,660 千円
補助金内訳（主なもの）	県民体育大会費：3,940 千円、事務局給与：2,380 千円、県への分担金：1,066 千円

「市体育協会補助金」の評価まとめ

◆総合評価

- ☐ A 更に充実させる
 ☐ B 現状のまま維持
☒ C 効率化・コスト削減の方向
 ☐ D 縮小・廃止を前提とした見直し

〔 補助金交付要綱の早急な制定を求める。また市体育協会の組織運営の見直し、各種スポーツ振興に繋がるよう市としての支援の在り方を検討すること。 〕

・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

当該補助金は、スポーツ振興を図るうえで必要な補助金であることは理解するが、補助金交付要綱が未策定であることから、補助金交付の目的など交付の根拠を明確にする必要があるため、早急な制定を求める。

担当課に求めるものとして、現在、補助金の使途としては、主に県民大会に向けた各種スポーツ団体（専門部）を支援するものとなっているが、スケートボード等の新たなスポーツや、障がい者スポーツへの支援は行われていない状況であるため、各種スポーツの振興に繋がるよう、支援の在り方を検討していただきたい。また、新たな専門部の設置に向けて、評議員会の開催の在り方なども含め、組織運営の見直しも体育協会へ働きかけていただきたい。

補助金交付団体へ求めるものとして、市体育協会では会員からの会費徴収は行っていないが、適切な団体運営のため会費の徴収について検討すべきである。

今後は、本市の更なるスポーツの振興を図るため、市体育協会と行政において目指すべきビジョンを共有するとともに、それぞれの役割を明確にし互いに連携を深めていく必要があると考える。

うるま市シルバー人材センター運営補助金（産業政策課）

補助事業の概要	うるま市シルバー人材センターの事業の推進及び充実を図り、並びに高齢退職者等の生きがいの充実、多様な就業機会の提供及び福祉の増進を図る。
令和4年度 補助金額	14,602 千円
補助金内訳（主なもの）	給与手当：9,860 千円、法定福利費：1,425 千円、システム及びパソコンリース等：1,050 千円

「うるま市シルバー人材センター運営補助金」の評価まとめ

◆総合評価

- ☐ A 更に充実させる
 ☒ B 現状のまま維持
 ☐ C 効率化・コスト削減の方向
 ☐ D 縮小・廃止を前提とした見直し

繰越金の活用方法や会員と企業の効果的なマッチングを検討すること。

・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

市シルバー人材センターの運営を補助することで、高齢者の就業機会の確保、社会参加による生きがいの充実、介護予防等につながると考えられることから市が補助金を交付する意義があるとする。

しかしながら、多額の繰越金があることから、担当課は、その使途についてシルバー人材センターと協議するとともに、適正な補助金額になっているのかを十分精査していただきたい。

また、会員が長年培った知識・経験・技能を活かすことができるよう、会員と企業の双方が求めるニーズをマッチングできる仕組みづくりが必要である。そのためにも市シルバー人材センターは、会員が保有する免許、資格などの会員データの人材バンク的な活用に向けた整理を行い、その周知広報の方法についても検討していただきたい。

高齢者の就業やボランティア等の社会参加による健康で生きがいのある生活の実現に向けて、担当課と市シルバー人材センターが連携し、活力ある地域になるよう取り組んでいただきたい。

自治会運営振興補助金（市民協働政策課）

補助事業の概要	自治会運営に要する経費の一部を補助し、自治会運営の振興を図り、防犯対策、生活環境対策及び住民福祉に寄与することを目的とする。
令和4年度 補助金額	13,628 千円
補助金内訳（主なもの）	市内 63 自治会へ運営に要する経費の一部を補助（自治会ごとに算定）

「自治会運営振興補助金」の評価まとめ

◆総合評価

- ☐ A 更に充実させる
 ☐ B 現状のまま維持
☒ C 効率化・コスト削減の方向
 ☐ D 縮小・廃止を前提とした見直し

〔 各自治会への補助金交付方法を検討すること（分配方法やインセンティブ制度など） 〕

・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

今後、更なる自治会の活性化を図るため、地域コミュニティにおいて中心的な役割を果たしている『自治会』及び『自治会運営振興補助金』の在り方について、自治会長連絡協議会や各自治会と共に改めて検討していただきたい。

また、自治会加入促進の取り組みとして、チラシの配布や加入促進のための新たな部会の立ち上げを検討しているとのことだが、自治会長連絡協議会等と連携し、加入率が高い自治会の取組内容を全自治会に共有する場を設けるなど、より効果的な取り組みについて検討していただきたい。

当該補助金については、自治会ごとに均等割や世帯割等で補助金額を算出し交付している状況とのことであるが、加入率が増加した自治会へのインセンティブ（補助金交付額増）制度の創設など、交付金額の在り方について検討していただきたい。

また、担当課は、現在の本市自治会加入率を維持出来るか否かが、今後の地域コミュニティの姿に大きな影響を与えるという危機感を持っていただきたい。

今後は、担当課だけでなく全庁的な取り組みとして、自治会長連絡協議会及び各自治会との連携をさらに強化し、自治会活動がより活発になるような効果的な支援の在り方を検討していただきたい。

うるま市商工会補助金（商工振興課）

補助事業の概要	商工会の円滑な運営を図り、本市の商工業、物産等の振興を推進し、地域産業の活性化に寄与することを目的とする。
令和4年度 補助金額	14,100 千円
補助金内訳（主なもの）	事務費：6,900 千円（消耗品、車両維持費等）、商工会報発行費：1,720 千円、経営改善普及事業指導事業費：1,430 千円、商業振興費：1,040 千円

「うるま市商工会補助金」の評価まとめ

◆総合評価

- ☐ A 更に充実させる
 ☒ B 現状のまま維持
 ☐ C 効率化・コスト削減の方向
 ☐ D 縮小・廃止を前提とした見直し

商工会の活動が活性化するよう市として関わりを強めること。

・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

補助金は市民の税金をもって交付されるものであることから、担当課は、当該補助金の必要性や用途について説明責任を果たすためにも、商工会の運営・活動についてしっかり把握していただきたい。

また、コロナ禍からの回復期でもあることから、市内事業者が必要とする支援事業に対して、商工会を通して市が支援する意義はあると思われる。今後は、商工会と連携し、国、県に対して中小企業を支えるための様々な事業の提案をしていただきたい。

商工会に対しては、青年部及び女性部の活動をより活性化させ、成果として示せる取り組みを実施するよう要望する。

アフターコロナにおける事業者支援や創業支援など、更なる市商工業の振興を図るうえで商工会の果たす役割は大きいことから、担当課として商工会へ積極的に働きかけ、商工会の活動がより活性化するよう努めていただきたい。

学力向上対策推進協議会補助金（学校教育課）

補助事業の概要	研究活動費を活用して教職員のスキルアップを図るとともに、「学校、家庭、地域」が一体となって児童生徒の学力向上を推進する。
令和4年度 補助金額	6,202 千円
補助金内訳（主なもの）	事務局費：3,039 千円（使用料及び消耗品等）、研究活動費：1,335 千円、ブロック活動費：893 千円、イングリッシュキャンプ運営費用：700 千円

「学力向上対策推進協議会補助金」の評価まとめ

◆総合評価

- ☒ A 更に充実させる
 ☐ B 現状のまま維持
☐ C 効率化・コスト削減の方向
 ☐ D 縮小・廃止を前提とした見直し

児童生徒の学びの定着に向けて、全国との学力差解消のみならず学ぶ環境づくりにも引き続き注力すること。

・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

児童生徒の学力の向上を図るための対策として、基本的な考え方や目指す方向性は良いと思われる。研究活動費の予算の組み方についても、例年は各学校へ一律の予算配分となっていたが、令和5年度分からは各学校からの要望に基づき精査しており、改善が見られる。

教育現場の実態として、生活改善の指導に時間を取られ、教材研究や指導方法を考える時間がないとの課題があることから、行政、学校、保護者、地域、事業者がともに知恵を出し合い一体になって取り組む必要がある。この観点から、地域とともにある学校を支援する本補助金は、相当に有効な役割を果たしていると考えられる。

また、勉強できる環境づくりや習熟度別での学習指導の検討、教員の意識改革にも取り組んでいただきたい。

小学校から中学校にかけての学習習慣の定着に課題が見受けられるため、成果指標については、全国との学力差だけでなく、勉強の定着、生活リズムを整える部分での新たな指標の追加を検討していただきたい。

うるま市の将来を担うこども達の未来への投資であることから、取り組みを更に充実させていただきたい。

文化協会補助金（生涯学習文化振興センター）

補助事業の概要	文化の創造と振興に努め、郷土の文化向上に寄与することを目的にうるま市文化協会の行う事業に要する経費の一部を補助する。
令和4年度 補助金額	3,153 千円
補助金内訳（主なもの）	文化祭費：1,291 千円、各部活動費：862 千円、印刷製本費：794 千円

「文化協会補助金」の評価まとめ

◆総合評価

- ☐ A 更に充実させる
 ☐ B 現状のまま維持
 ☒ C 効率化・コスト削減の方向
 ☐ D 縮小・廃止を前提とした見直し

（ ゼロベースで補助金の在り方を検討すべき（市の文化振興、文化協会と行政との役割を整理し、補助金の在り方を再検討してほしい）。 ）

・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

文化の維持・継承・発展は非常に重要であることから、担当課においては、文化振興を図るうえで文化協会と行政それぞれの役割を整理するとともに、行政としてできる文化振興の取り組みについても今一度考えていただきたい。

また、伝統芸能やしまくとうばなど、公的に支える必要がある文化があることは理解するが、その他の文化活動について、文化協会を通して支援する必要性を担当課は改めて検討すべきである。

補助金額に関しては、長年、同額であることから、今の時代に合った文化振興に効果的につなげるためにも見直しが必要でないだろうか。会場使用料などの一部削減が検討できる部分は見直し、より効果的な補助金の活用ができるよう文化協会と連携を図っていただきたい。

また、文化協会の芸能・美術の各専門部の活動に関しては、総合文化祭での展示や発表が目的化しているように感じられ、年間を通して文化振興に繋がる取り組みがなされているのか疑問である。

今後のうるま市の文化・芸術活動を支えるうえで効果的な補助金となるよう、担当課と文化協会においては、相互の連携の在り方や文化協会の活動・運営の在り方等について改めて検討していく必要があると考える。

うるま祭り事業補助金（観光イベント課）

補助事業の概要	うるま祭り実行委員会が開催するうるま祭りに要する経費に対して補助金を交付する。
令和4年度 補助金額	49,997 千円
補助金内訳（主なもの）	委託料：47,364 千円（花火、警備、機材リース、シャトルバス、音響、会場設営等）

「うるま祭り事業補助金」の評価まとめ

◆総合評価

- ☐ A 更に充実させる
 ☐ B 現状のまま維持
☒ C 効率化・コスト削減の方向
 ☐ D 縮小・廃止を前提とした見直し

（ 今後の祭りの在り方を具体的に検討すること。 ）

・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

祭り運営の一部外部委託については、市職員のスタッフ動員を少なくする効果はあるが、委託の有効性を高めるために、市職員の負担の実態や委託の実態を精査した上で、その費用対効果についてしっかり検証し、市にとって真に効果のある委託を実施していただきたい。

うるま祭りを含めた市の四つの祭り（エイサーまつり、産業まつり、あやはし海中ロードレース大会）の今後の在り方に関しては、祭りの統合も含めて検討していただきたい。また、市内各地域でも祭りの雰囲気味わえるように大型モニターを活用したパブリックビューイングを実施するなど様々なアイデアを取り入れ、『うるま市』を市内のみならず市外へも PR できる祭りにしていただきたい。

また、こども達や学生にもボランティアや企画等に積極的に関わってもらい、今後のうるま市を担う世代の成長にも繋がるような、祭りとなるよう見直しを図っていただきたい。

社会福祉協議会運営補助金（福祉政策課）

補助事業の概要	地域福祉の行政支援施策を補完しながら中核を担う、うるま市社会福祉協議会の継続的で安定的な運営を図るため、補助金を交付する。
令和4年度 補助金額	117,618 千円
補助金内訳（主なもの）	人件費：109,400 千円、退職手当等関連費：8,095 千円（退職手当積立基金、退職給付引当資産を含む）

「社会福祉協議会運営補助金」の評価まとめ

◆総合評価

- ☒ A 更に充実させる
 ☐ B 現状のまま維持
☐ C 効率化・コスト削減の方向
 ☐ D 縮小・廃止を前提とした見直し

社会福祉協議会が持続可能な形で運営できるように社会福祉協議会への人員増を視野に入れて検討すること。

・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

社会福祉協議会は、地域福祉の中核を担う社会福祉法人であり、その役割は、行政の手が届かない高齢者や障がい者、ひきこもり等の支援や福祉資金の貸付、地域づくりなど福祉全般にわたり、うるま市の福祉向上に大変重要な役割を担っている団体であると考えます。

近年、地域福祉ネットワークの構築や災害時の支援など、社会福祉協議会が果たすべき役割が年々増すなか、新たに「複雑化・複合化した支援ニーズに対応する支援体制（重層的支援体制）」を市と共に構築する必要もあり、現状の職員体制では対応が困難と思われる。担当課として、社会福祉協議会が持続可能な形で運営していけるよう、その組織機構改革や事業整理に併せて人員増も視野に入れて検討していくべきではないか。

また、人材確保についても優秀な人材の獲得に向けて周知広報の取り組みも充実させる必要がある。

今後は、担当課と社会福祉協議会においては、市の目指すべきビジョンを共有し更なる連携を図っていただきたい。

社会福祉協議会補助金【ボランティア事業】（福祉政策課）

補助事業の概要	うるま市社会福祉協議会に補助金を交付し、ボランティアの確保や人材の育成、ボランティア団体への活動支援等を推進する。
令和4年度 補助金額	5,365 千円
補助金内訳（主なもの）	人件費：4,822 千円、事業費：421 千円（車両リース、PC リース等）

社会福祉協議会補助金【ボランティア事業】の評価まとめ

◆総合評価

- ☒ A 更に充実させる
 ☐ B 現状のまま維持
☐ C 効率化・コスト削減の方向
 ☐ D 縮小・廃止を前提とした見直し

ボランティアコーディネーターの身分及び職責について再考していただきたい。

・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

地域における福祉コミュニティの形成を図るうえで、ボランティアコーディネーター（以下「コーディネーター」という。）の役割は重要であると考えます。

コーディネーターは、ボランティア活動を行う団体や市民とボランティア活動を求める市民等を繋ぐ役割を担っており、現在、非正規職員で対応しているとのことであるが、人と人を繋ぐコーディネーター業務は、担当者が変わることによって効率が悪くなることが懸念される。

市のボランティア文化の定着を図るためには、コーディネーターは安定した雇用が必要と思われることから、担当課は社会福祉協議会に対して、コーディネーターの身分と職責について再考してもらうよう強く働きかけていただきたい。

また、ボランティア活動を行う団体や市民の登録者は増加傾向とのことであるが、登録者が対応できるボランティア活動と依頼者が求めるボランティア活動に認識のずれがあるように感じるため、社会福祉協議会には、その解消に向けた取り組みを検討していただきたい。また、引き続き登録者を増やす取り組みにも努めていただきたい。

視覚障がい者への理解を促すため、小中学校でのアイマスク体験を実施しているとのことだが、子どもの頃から福祉について考える良い機会になると思われるため、福祉教育の観点からも引き続き取り組んでいただきたい。

市の基本目標である「みんなで支え合う健やかなまちづくり」の実現に向け、ボランティア活動の活性化は非常に重要であるため、担当課は、ボランティア活動の目的・意義、今後の方向性等をしっかりと示したうえで、社会福祉協議会との連携をより強化していただきたい。

◇付属資料

令和５年度 うるま市補助金審査委員会審査経過

日 程	事 項	内 容
５月１８日（木）	第１回補助金審査委員会	補助金審査対象事業について
６月１５日（木）	第２回補助金審査委員会	個別補助金について審査【３件】
７月２０日（木）	第３回補助金審査委員会	個別補助金について審査【３件】
８月１７日（木）	第４回補助金審査委員会	個別補助金について審査【３件】
９月２１日（木）	令和５年度補助金等に関する審査結果総括について	補助金審査意見の総括【９件】
１０月２６日（木）	令和５年度補助金等に関する審査結果について	補助金審査結果を市長へ報告

うるま市補助金審査委員会委員名簿

	区分	氏名	役割等
1	会長	さとう まなぶ 佐藤 学	学識経験者
2	副会長	あらかき そうだい 新垣 壮大	
3	委員	いしかわ わたる 石川 航	
4	委員	うえま そのこ 上間 園子	
5	委員	かわかみ てつふみ 川上 哲史	
6	委員	くによし まさみつ 國吉 真充	
7	委員	ゆう た ノーマン裕太ウエイン	
8	委員	ひ が あつこ 比嘉 敦子	